

年

組

名前

2021年6月15日付夕刊

埼玉の小6発見 米学術誌に掲載

カブトムシを観察する柴田亮君。昨年8月（母真理子さん提供）



夜行性とされるカブトムシが昼間でも特定の種類の木では活動していることを、埼玉県杉戸町の小学六年、柴田亮君（こ）が二年間の観察で明らかにした。山口大の小島渉講師（昆虫生態学）と共同でまとめた論文が米国の学術誌「エコロジー」に掲載され、同誌はツイッターで「生態学者になるには若すぎる、なんてことはない」と証明してみせた」と賛辞を贈っている。

カブトムシ 昼もゴソゴソ

自宅の庭観察 疑問抱く

小島さんによると、カブトムシは日没後、主にクヌギの樹液に集まって食事し、昼間は別の場所に移動して眠る習性がある。カブトムシに興味を持つ柴田君は四年生だった二〇一九年夏、自宅の庭にある東南アジア原産の木「シマトネリコ」に日中も集まっているのを見て疑問を抱いた。

翌二〇年には絵の具で百

六十二匹に印を付ける手法を導入。二年間で計二百三十一回に上る観察の結果、多くのカブトムシが夜間に飛来し、日中も食事や交尾をしていたことが分かった。二十四時間以上とどまっていたケースも確認できたという。

小島さんは成果を世界に向けて発表しようと思案を送った。「カブトムシの活動時間は気温の影響を受けると考えられてきたが、食事する木で変わるのとは新発見。今後の研究で理由が分かれば面白い」と話す。

「かわいくてかっこいいカブトムシに会えるのが毎回楽しみだった」と振り返る柴田君。いつかは個体追跡調査やシマトネリコの樹液の分析にも挑戦し、研究を深めたいと意気込んでいる。

【活用にあたって】

探究的な取り組みは、どの教科の学習でも大切です。実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立てます。その課題を解決するために情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現するまでが探究的な学習の流れです。

柴田君の研究は、まさに探究的な学習の流れになっています。まとめには研究の成果とともに次の課題が明確に示されています。すばらしい研究ですね。

解答例

問1：自宅の庭にあるシマトネリコの木に、夜行性のカブトムシが日中に集まっているのを見て疑問を抱いた。

問2：① 1、シマトネリコ、3～5

② カブトムシ

③ 観察方法

④ 162

問3：夜行性とされるカブトムシが昼間でも特定の種類の木では活動していること。

問4：① 個体追跡調査

② 樹液の分析